



コロナを乗り越えよう!

永森直人 県議会通信

射水市・富山県の幸せな未来のために 引き続き頑張ります!



令和4年9月22日
後援会・直心会臨時総会の様子

平成23年4月に初当選
させていただいて以来、地
域の皆様方の温かいお支え
のもと11年半の月日が過
ぎました。

3期目については、その
任期の大半を新型コロナウイルス
イルスの感染拡大下という
非常事態の中で務めること
になりましたが、自民党県
連の役員の一員として、医
療提供体制の充実、コロナ
禍で疲弊に苦しむ飲食事
業者の救済やコロナ禍によ
る行動制限の影響を大き
く受けた子どもたちの学
びの確保など、現場の多様
な声を県政へ届け、成果も
あげることができたと思っ
ています。

また、戸破地域における
子ども食堂開設に端を発
して明らかとなった、子ど
も食堂開設の際の煩雑な
手続きの規制緩和、富山市

内の車椅子バスケットボー
ルの練習場所となっている
体育館の廃止を受けて明
らかとなった障害者スポー
ツの受け入れに関する諸問
題の解決など行政の手が
行き届かない課題の解決に
も積極的に取り組んでき
ました。

地元射水市においては、
かねてから取り組んできた
射水市南部丘陵エリア(金
山・池多・櫛田)の中山間地
域の指定が決まり、中山間
地域の農地保全に手厚い
支援を得る仕組みを構築
することができ、里山の魅
力を射水市全体の活性化
に結びつけていく足がかり
をつくることができました
と思っています。

また、インフラの整備で
は、越中大門駅のバリアフ
リー化事業が基本設計に
着手し、また道路整備事業
においては、大江地内の道
路改良をはじめとする各
種道路の拡幅事業の完了、
県道富山戸出小矢部線・生
源寺地内の道路改良事業
や五歩一交差点立体化事業
などが順調に進んでいるほ
か、県道七美四方荒屋線(仮
称)や県道小杉大門線堀内

地内が令和4年度から新
規着手され、小島踏切の拡
幅事業については着工に向
け、ようやく目処がついて
きました。さらに、下条川の
堆積土砂を取り除く浚渫
事業も令和4年秋から工
事に取り掛かることとなっ
たほか、大門エリアにおけ
る農地の基盤整備事業も
新たに着手が進むなど、数
多くのご要望に必ずしも全
て応えられない中であって
も、地域の声をしっかりと
聞き、行政に届ける努力を
積み重ねてきました。

さらに、富山県立大学に
おける新学部設置など含
む拡張・機能強化や太閤山
ランドのリニューアルに向
けた取り組み、また小杉地
区有志で小杉駅再開発の
調査研究を進めるなど、射
水市の中長期的な飛躍を
側面から支援するための、
未来に向けた投資について
も、しっかりと取り組みを
進めてきました。

一方で、少子化・人口減少
の波は凄まじく、例えば、県
立高校の定員設定が難航
したことから見ても、
人口拡大を前提として作
られてきた社会の様々な仕
組みが限界を迎えているこ
とが明らかとなってきてお
り、デジタル化など新しい

技術を取り入れながら、新
たな社会の仕組みをゼロか
ら構築していかなければな
りません。そういう意味で
は、県議会には、10年、20年
先を見据えたダイナミック
な議論・提言を行い、行政を
突き動かす原動力となる
役割が求められていると感
じています。

特に、高校再編を含む教
育の問題や公共交通のあ
り方などは、直ちに抜本的
な対策に取り組むべき大
きな問題であり、一方で、米
需要が減少していく中での
農業のあり方、年々、激甚化
していく自然災害への対応
も急務であり、さらに当然
のことながら、道路、河川、
子どもたちの通学路の安全
対策など社会インフラの整
備にも引き続きしっかりと
取り組んでいく必要があります。

これまで3期、11年半に
わたり、皆様のご支援とご
指導のもと、政治経験を積
んできました。その経験を
しっかりと活かし、そして
同時に、富山県、射水市の
幸せな未来のために責任
世代として、覚悟を持って
取り組んでいく所存であり
ますので、今後とも、叱咤激
励のご指導・鞭撻を賜るこ
とができれば幸いです。

問 成長戦略とウエルビーイングなまちづくりについて

問 県立大学においてデータサイエンス人材の育成に向けて検討を開始した背景や知事の思いを問う。

答 (知事)

近い将来、全国でデータサイエンス人材をはじめIT・AI人材が数万人規模で不足すると予測する国の調査結果が出されており、全国の大学ではデータサイエンス学部あるいは学科の設置が進められている。

定員をどうするかなど具体的な内容は、今後、有識者から幅広いご意見もいただきながら検討することになるが、仮に学部を設置する場合は、既存の工学部との関係や教員の確保、定員の規模、それに伴う必要な施設の整備などの課題があると認識している。データサイエンス人材の育成は急務と考えており、有識者会議での議論も踏まえ課題を整理し、秋頃までには一定の結論を出していきたいと考えている。

問 自動車のEV化の進展をどのように見通し、自動車産業をはじめとす

る本県経済の受ける影響をどのように認識しているか。

答 (商工労働部長)

県内企業で製造される部品は内燃機関向けも多く、電気自動車(EV)にシフトすると、部品数は従来の約2/3となり、使用されない部品もあるため、県内企業にとって大きな影響があるものと考えている。一方、EVにシフトすることで、新たに必要となる部品もあるため、新しい市場が創出され、高い技術力を有する県内企業にとって様々なビジネスチャンスが生まれるものと認識している。

このため、今年度からは、産学官連携によるこれら3分野に関する新製品・新技術の研究開発を公募し、積極的かつ重点的に支援することとしている。

問 昨年度、太閤山ランド魅力向上調査に取り組んだ結果を受け、太閤山ランドの可能性をどう評価し、今後どのような方向性を描いているのか。

答 (知事)

昨年度の魅力向上調査では、多種多様な企画案の中から官民が連携することで導入の可能性がある、約80の魅力向上策が挙げられた。今年度は、民間活力の導入可能性の検討を深めるため、パークPFIを前提としたサウ

ンディング調査や、民間事業者の柔軟な提案を取り入れた実証実験を行うこととしており、その結果も踏まえ、具体的な整備の方向性を検討し、官民が連携して魅力向上策の実現に向けて努力していく。

問 太閤山ランドの夜間開放ライトアップや駐車場の夜間無料化などに取り組むとともに、バーベキュー広場をラグジュアリー感のある施設にリニューアルを行うなど、若年層の取り込みを図るべきと考えるが、所見を問う。

答 (土木部長)

バーベキュー広場のリニューアルについては、先の調査においても、デイキャンプやグランピングといったラグジュアリー感のある提案があったところである。これらの施設については、収益性が見込まれ、整備には民間活力の導入が考えられることから、太閤山ランドで実施する実証実験への参加者や、県立都市公園におけるパークPFI方式を前提としたサウンディング調査への参加者との対話等を通じて、実現性などを検討したい。

また、夜間開放やライトアップは、太閤山ランドは、広大な敷地であることから、夜間開園にかかる安全・防犯対策、例えば照明灯や防犯カメラの整備

や、夜間監視にかかる管理運営体制の見直しなど、実現までにかうした課題を解決していく必要がある。

問 車椅子バスケットボールについて、健常者と同様の利用を認めない県内自治体の体育施設の運用は、障害者差別解消法に定める「差別的取扱いの禁止」の義務違反にあたるのではと考えるが、見解を問う。

答 (厚生部長)

差別的取扱いの禁止義務に違反するものかどうかは、各体育施設の床面の状況や行われる競技の激しさ、接触の強弱、目的が練習であるか大会であるかの用途等を踏まえて、床の損傷の程度や修繕等の状況から、正当な理由の有無を個別に判断することになる。申込者と施設がよく相談して、で



きる限り合意を形成することが大切だと考える。結果として施設が利用を断る場合は、申込者に対し、その理由について十分な説明をし、理解を得るよう努めることが必要であると考え

問 富山市勤労身体障害者体育センターの廃止の問題について、県も車椅子バスケの練習場所確保の問題の解決に主体的に取り組む必要があると考えるがどうか。また障害者スポーツ施設の環境確保にしっかりと取り組むべきと考えるが決意を問う。

答 (知事)

障害者が優先利用できる施設がなくなるが、ダイバーシティ&インクルージョンの観点から、専用の施設を設けるというよりは、障害者と健常者、高齢者や子どもたちが共に認め合い、譲り合いながら使用することが今後の方向だと考えており、県有施設の利用の可能性についても前向きに検討してまいりたい。

県としても、改めて障害者差別解消法の趣旨を体育施設の管理者等に周知するなど、県内の体育施設において、車椅子バスケットボールに限らず障害者スポーツに対する理解が進み、利用が促進されるよう努めてまいりたい。

Topics

1 朝日町の新しい公共交通サービス「ノッカルあさひまち」を視察

皆様、「ノッカルあさひまち」をご存知ですか？

「ノッカルあさひまち」とは、公共交通にお互いに助け合う互助の精神を取り入れた公共交通の形であり、事前に登録した住民ドライバーが、自身のお出かけのついでに、交通弱者である高齢者などを「乗っける」ことにより、その移動を支えるサービスです。

朝日町は、高齢化率44.6%、消滅可能性都市にも指定され、過疎に苦しむ自治体の典型ともいえる町です。朝日町の笹原町長は、わが町は課題先進地と堂々と宣言している姿はとても印象的でした。そうなんです。公共交通の問題は、多かれ少なかれ、各自治体にお

いて、すでに大きな課題となっており、しかし、朝日町ほど逼迫していない、もう少し、そ〜っと寝かしておきたい課題なのだと思います。朝日町の町内移動はこれまで「あさひまちバス」という、いわゆるコミュニティバスに頼っていたそうです。1日38回9路線を運行し、路線内を自由に乗降できる仕組みを取り入れ、コロナ前まで64ヶ月連続で対前年同月を上回る実績をあげていました。

他方で、地区によって便数に違いがあり、利便性にも差がありました。交通弱者にとって移動手段が足りないことは、イベントに参加できない、友達に会えない、そうしたことが住民の暮らしの質の低下につながっていると町では考えました。その課題解決には、バスを現行の3台から4台に増やす必要がありますが、しかし、そのためにはバスの購入を含めた財政負担の問題、運転手の確保の問題など、どの自治体でも悩みそうな問題があったのです。そんな状況の中、なるべく財政負担を抑えながら、「住民の足を守る」ことを考えた結果生まれたのが「ノッカルあさひまち」です。

令和4年7月21日現在、ノッカルあさひまちには201名の方が登録しています。80代女性が多そうです。一方の住民ドライバーは30人が登録しています。利用登録者は、前日までに予約をいれると、住民ドライバーが迎えに来てくれ、通勤途中などドライバーの用事のついでに、病院などの目的地に届けてくれます。

当初、無料で始まったこのサービスは、令和4年1月から有料化され、現在は1回600円、相乗りなら400円となっています。600円の配分は、200円は町、200円は運行受託する黒東タクシーに配分され、ドライバーには200円の商品券が渡されるそうです。運行回数は、月に150人程度となっており、予約件数と利用人数が広がりつつある段階です。利用する住民からは、「病院、スーパーなど必要不可欠な場所へは家族に頼めたが、温浴施設など行くことは頼みにくかった。このようなサービスの形を取ることで、行きやすくなった」との声があったそうです。なるほどと思いました。サービス化することで住民の暮らしの質が確かに高まっていますよね。

私達、自民党議員会においては、持続可能な公共交通PTをつくり、県の地域公共交通政策について提言をおこなっていく予定です。鉄軌道などの問題とともに、2次交通も重要なテーマであり、大いに参考にさせていただき、また様々な市町村長さんとお話する機会の重要性も痛感いたしました。



2 県立高校再編について

令和5年度の県立高校定員をめぐり、一部の市町が異議を表明し、各学校の定員の決定が大幅に遅れました。具体的には、令和5年3月の中学校卒業生数は、8,751人で前年に比べ159人の減少(40人学級で4クラス換算)で過去最低になり、学級数の再編が不可欠な中、県教委では、雄山、富山、富山中部、高岡、氷見の普通科をそれぞれ1学級ずつ減らすことを検討していましたが、予め打診を受けた、立山町と氷見市が「待った」をかけた形となり、決定が難航したのです。そこで、現在、県立学校の定員はどのようになっているのか整理しておきたいと思えます。まず、富山県の中学校卒業生数の推移をみると昭和63年がピークであり、その後は、一貫して減少が続いています。令和5年(平成35年)度の8,751人も、まだまだ減少の過程に過ぎず、今後もさらに大きく減少していくという厳しい事実をまずは踏まえる必要があります(ちなみに令和3年の出生者数は6,076人)。

今回、一つ画期的と言えるのは、富山県で御三家と呼ばれる進学校である富山・富山中部・高岡高校の学級数が7学級(普通5・探求2)から6学級(普通4・探求2)になることです。御三家の学級数は、平成10年以降一貫して減少することはありませんでした。しかし、この間、中学校卒業生数は4,000人減っていますから、やむを得ないことであると思えます。氷見高校、雄山高校についても、両市町長の思いは十分に理解できますが、学区全体のバランスを考えると、生徒数が激減する中、やむを得ない措置であるとも考えられます。他方で、令和5年度を乗り切ったとしても、令和6年度以降も減り続ける中学卒業生数への対応に県教委は悩まされ続けることになることは必至です。

現在、県教委では、「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会」を設置して県立高校のあるべき姿について議論を進めています。しかし、この議論においては、具体的な学校の配置についての議論には踏み込んでいません。もはや小手先の学級減による調整は限界を迎えていることは明らかであり、今回の騒動は、そのことを象徴するものであるという気がしています。今年度で結論を出すと思われる「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会」においては、具体的な学校配置の議論につなげるような提言を望むとともに、その提言を受け、次年度からは、具体的な学校配置について議論を始めるべきであると改めて強く感じます。

安倍元総理を偲んで



2020年7月 首相官邸にて

令和4年7月8日、参議院議員通常選挙の最終盤において安倍元総理が、凶弾に倒れ、お亡くなりになりました。アベノミクスを始めとするデフレ脱却への力強いリーダーシップ、特定秘密保護法や平和安全法制、また近年では日米豪印によるクワッドの枠組みを構築し、「自由で開かれたインド太平洋」を提唱するなど、日本の国を未来に向けしっかりと守り抜いていくための確かな礎を築いていかれました。安倍元総理のご功績に最大限の感謝をし、心よりご冥福をお祈りいたします。

去る5月29日、安倍元総理は自民党富山県連が主催した政経文化セミナーに参加するため来県されました。私は、安倍元総理を会場内において先導するお役目を頂戴しておりましたが、控室にご案内した際、呼び止められ、「せっかくだから少し話そうよ」と二人だけでお話するという、誠に貴重な経験をさせていただきました。富山県内の選挙区情勢を聞かれたり、新型コロナ対策についてお話を聞かせていただいたりしましたが、本当に気さくで明るい方だったという印象が強く残っています。

世界情勢が混沌とし、日本の未来にも暗雲が明らかに漂い始める中、まだまだご活躍をいただきたい存在であり、無念でなりません。地方議員ではありますが、安倍元総理が描かれた日本のあるべき国家の姿の実現に向けて、微力ながら、努力したいと思います。改めて、心よりご冥福をお祈りいたします。

富山県議会議員 永森直人 (ながもりなおと)

47歳

〈略歴〉

生年月日/昭和50年1月20日生まれ

住 所/射水市三ヶ

経 歴/小杉小学校、小杉中学校、高岡南高校、東京都立大学経済学部卒業

家 族/妻、長男、次男と4人暮らし

平成9年4月

富山県庁入庁

ロシア・ウラジオストク派遣留学、広報課、高齢福祉課では特別養護老人ホームの待機者対策などの施策に取り組む。

平成22年9月

富山県庁退職

平成23年4月

富山県議会議員に初当選(現在3期目)

平成27年4月
平成29年4月
令和元 年5月
令和3 年4月~

富山県議会教育警務常任委員長、自民党県連青年局長
自民党県連 政務調査会副会長・経済建設部会長
自民党県連 政務調査会副会長・議会運営委員会副委員長
自民党県連 組織委員長

主な役職

自民党射水市連支部長、自民党小杉連合支部支部長
射水市消防団南部方面団長、小杉まちづくり協議会会長
NPO法人日本応急手当普及員協会顧問(令和4年4月現在)

公式ブログ情報発信中!

ナガモリナオト で検索

